

《安全を確保するのは「人」さまざまな訓練を継続的に実施しています》

女川原子力発電所では、現在、各種安全対策工事を行っておりますが、これら設備を操作するのは「人」です。このため安全対策が有効に機能するように、日々、事故時を想定した訓練を実施しています。今回は、最近実施した訓練の一部を紹介いたします。

《代替注水車のホース接続訓練》

非常時に貯水タンクなどから原子炉や使用済燃料プールに直接注水できる代替注水車を使用した訓練です。

ホースの敷設や代替注水車への接続を行いました。



ホースの敷設



水源へのホースの敷設



代替注水車へのホースの接続



保全部 タービングループ
渡邊 優介 (仙台市出身)

代替注水車を使用した訓練を実施しながら、緊張感と責任感を持って発電所の安全対策に取り組んでいます。



ホイールローダによる土砂撤去



バックホウによる土砂撤去



訓練前の打ち合わせ



土木建築部 土木グループ
金子 生樹 (新潟県出身)

《重機によるがれき撤去訓練》

重機を素早く確実に操作できるように、繰り返し訓練しています。

ホイールローダやバックホウを使ったがれき撤去訓練です。津波によってがれきが流れ込んだことを想定し、繰り返し土砂を撤去する訓練を行いました。

《代替海水ポンプのホース接続訓練》



ホースの敷設準備

万が一、津波などによって海水ポンプが使用できなくなった場合に使用する代替海水ポンプのホースを接続する訓練です。

緊急車両がホースをまたいで通行できるように仮設ブリッジ (橋) の設置なども行いました。



仮設ブリッジの設置



重機による必要機材のつり上げ



保全部 原子炉グループ
我妻 浩史 (蔵王町出身)

全面マスクなども装着し、事故時を想定した訓練を行いました。

《「牡鹿鯨まつり」「おながわ秋刀魚収穫祭2015」が行われました》

9月13日(日)、牡鹿の捕鯨文化を伝承する「牡鹿鯨まつり」(主催:同実行委員会)が開催されました。

当日は、鯨の食文化を発信する鯨肉炭火焼き無料試食コーナーに長蛇の列ができたほか、牡鹿中学校生徒による侍ソランや復興太鼓などが披露され、多くの来場者で賑わいました。



当発電所も当社キャラクター「マカプウ」の大型遊具「フワフワマカプウ」を設置したほか、麦茶を無料で配布し、みなさまに喜んでいただきました。



また、9月20日(日)には、「おながわ秋刀魚収穫祭2015」(主催:女川魚市場買受人協同組合)が開催されました。

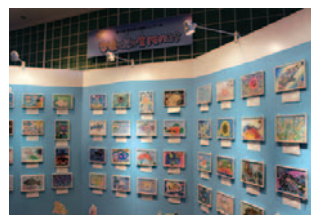


当日は、女川漁港に水揚げされた秋刀魚5,000匹の炭火焼きや、すり身汁4,000杯が無料で提供されたほか、女川小学校児童による鼓笛隊の演奏が披露されるなど、ゲストによる多彩なステージが繰り広げられ、多くの方々に賑わいました。

女川原子力PRセンターからのお知らせ

「東北電力図画コンクール」の一般投票を行っています

今年も作品募集を行い、約5000作品のご応募をいただきました。大変ありがとうございました。応募作品の中から、一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、来館者の皆さまによる一般投票を行っています。10月31日(土)まで行っていますので、是非、ご来館のうえ、お気に入りの作品にご投票ください。



女川原子力PRセンター収穫祭を開催します

10月31日(土)、女川原子力PRセンターにおいて収穫祭を開催いたします。無料のふるまいコーナーやPRセンター敷地内にあるスイートガーデンでの収穫体験、ものづくりやキャラクターショーなどを予定しています。みなさまをお誘い合わせのうえ、女川原子力PRセンター収穫祭にお越しください。

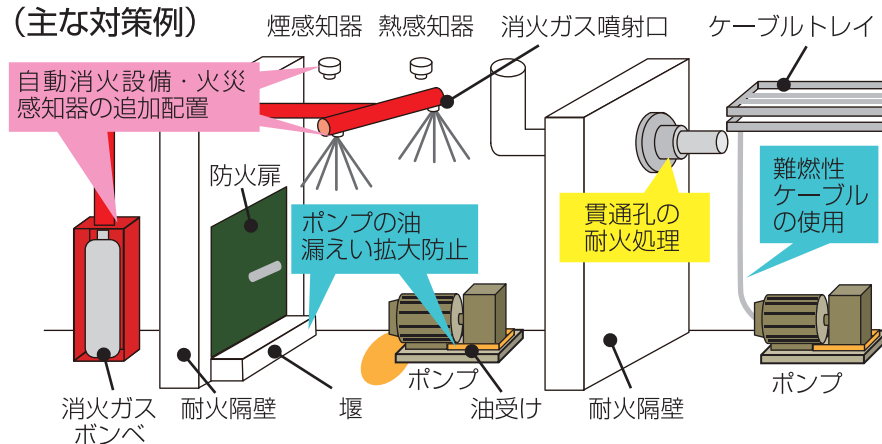


女川原子力PRセンター 0225-53-3410
開館時間/9:30~16:30 10月19日(月)は休館日

新規制基準適合性審査状況のお知らせ(9月末現在、審査会合63回)

2号機の適合性審査は、東京電力柏崎刈羽原子力発電所6・7号機の集中審査(発電所日より9月号にてお知らせ済み)を受け、9月は開催されておりません。今回は、これまでに実施されてきた審査会合のうち、平成27年1月8日、7月28日および8月6日に開催された審査会合で審議された火災防護対策のうちの「内部火災」の対策について紹介いたします。

(主な対策例)



原子炉の安全停止に必要な構築物や機器などについて、「火災発生防止」、「火災の感知・消火」、「火災の影響軽減」の面からそれぞれの対策を進めています。

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

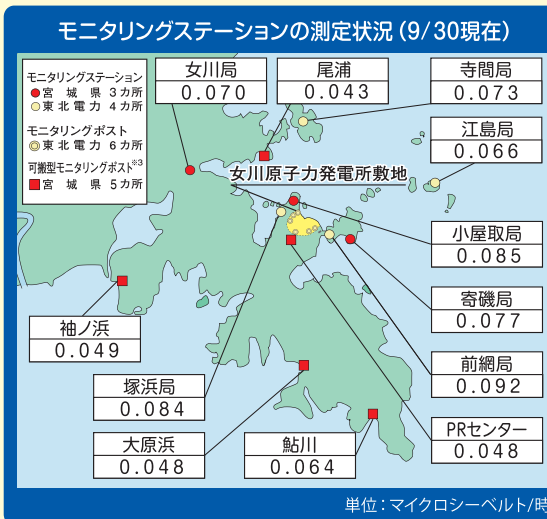
東北電力 女川審査会合

検索

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.059マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日	1.8~21※4
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	平成24年4月1日	0.063~0.098
	平成25年4月1日	0.055~0.076
	平成26年4月1日	0.046~0.065
	平成27年9月1日	0.041~0.061
	平成27年9月30日	0.042~0.059

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。